

## 2. ピンチ力 pinch strength 推奨グレード B

ピンチ力（つまみ力）は、短時間に力強く対象物をつまむ手の能力を測定することが可能である。測定されるつまみは、指尖つまみ、側腹つまみ、三指つまみである<sup>1,2)</sup>。指尖つまみは、母指と示指の指尖で O を作るようにして対象物をつまむことで、側腹つまみは、鍵をつまむように示指の上に母指を置き対象物をつまむこと、三指つまみは母指、示指と中指の三指で対象物をつまむことを示している<sup>1,2)</sup>。なお、つまみにおける力は指尖部で発揮されるとし、指腹つまみは言及されていない<sup>2)</sup>。検者間信頼性と再テスト信頼性の高い評価法である<sup>1)</sup>。健常人および様々な疾患において良好とされている<sup>2)</sup>。また、握力の信頼性にわずかに劣っている<sup>1)</sup>。握力と同様に年代別および性別の基準値が示されている<sup>3)</sup>。指尖つまみのピンチ力は握力よりも、多くの日常的な作業で重要であるとの報告がされている<sup>4)</sup>。指尖つまみは、正中神経麻痺と関連し、側腹つまみは尺骨神経麻痺や正中神経麻痺において低下し、特に尺骨神経障害と関連が深いとしている<sup>2)</sup>。また、母指の骨変形疾患においては、側腹つまみ、三指つまみの関連が高いとされている<sup>2)</sup>。測定が簡便かつ結果が明瞭であるため、ピンチ力は手の機能障害および残存能力の評価、治療目標と計画の立案、治療経過のモニタリングに使用することが推奨される。測定には同一の機器、肢位、教示を用いることが推奨されている<sup>2)</sup>。測定機器は、B&L 型ピンチゲージが最適とされている<sup>1,2)</sup>。

### 引用文献

1. Mathiowetz V, Weber K, et al. Reliability and validity of grip and pinch strength evaluations. *J Hand Surg Am* 9: 222-226, 1984.
2. Fournier K, Bourbonnais D. Pinch Strength Dynamometry, *American Society of Hand Therapists Clinical Assessment Recommendations, 3rd Edition, Online Companion*. pp21-32, 2015.
3. Werle S, Goldhahn J, et al. Age and gender specific normative data of grip and pinch strength in a healthy adult Swiss population. *J Hand Surg Eur* 34: 76-84, 2009.
4. Barden HL, Baguley IJ, et al. Computerized pinch dynamometry in the assessment of adult hand spasticity. *Aust Occup Ther J* 61: 415-423, 2014.